

株式会社 小学館  
代表取締役社長 相賀 昌宏 様  
ビッグコミックスピリッツ編集部 様

## 「福島差別」を温存助長する漫画掲載に強く抗議します

御社の週刊誌「ビッグコミックスピリッツ」に掲載された漫画「美味しんぼ」(第 604 話)で、東京電力福島第一原発を訪れた主人公等が鼻血を出す場面が描かれ、「福島では同じ症状の人が大勢いますよ」という前双葉町長の発言が引用された。同誌の発行後、双葉町に「福島県産の農産物は買えない」「福島県には住めない」「福島方面への旅行は中止したい」などの電話やメールが寄せられている。

双葉町は御社への抗議文の中で「双葉町民のみならず福島県民への差別を助長させることになると強く危惧」と訴えている。

東日本大震災から3年、原発事故直後に起こった福島県からの避難者児童へのいじめ、「福島ナンバー」や「いわきナンバー」の車への給油拒否、運送拒否、福島県民に対するホテルの宿泊拒否、産科での診療拒否など露骨な「福島差別」はさすがにメディアからその姿を消した。

しかし、「福島差別」は解決されておらず、深く静かに広がっていった。自殺防止の相談窓口への「放射能の影響を理由に結婚を断られた」という訴え、「結婚できないかもしれない」「子どもを産めないかもしれない」という女子生徒の不安、いわきニュータウンセンタービルに書かれた「被災者帰れ」という落書きなど、「福島差別」が社会に根を下ろそうとしている。

こうした現実をふまえるなら今回の問題は、単なる「風評被害」の問題ではなく、編集部の意図に関係なく、「福島差別」を温存助長するものであり、強く抗議する。

「福島差別」の現実を正しく認識し、今回の問題の差別性を自覚され、双葉町民をはじめすべての福島県民、福島県関係者に謝罪すること、さらにはこうした自体が二度と再び起こることのないよう再発防止策と「福島差別」解消の取り組みを講じられるよう求めるものである。

2014年5月8日

一般社団法人 部落解放・人権研究所  
代表理事 奥田 均